

平成27年度 秋季企画展

柏原市立歴史資料館

# 知恵と技術

——大和川のつけかえ工事——

## 9月15日(火)～12月6日(日)

JR 大和路線 高井田駅から  
徒歩約 **5** 分

近鉄大阪線 河内国分駅から  
徒歩約 **15** 分

大阪府柏原市高井田 1598-1  
電話 072-976-3430

月曜休館 (祝日は開館)

9:30～16:30 **入館無料**

史跡 **高井田横穴特別公開**

**2015年10月17日(土)**

**10:00～15:00**



大阪平野になんども洪水をおこしていた大和川は、今から 300 年ほど前につけかえられることになりました。300 年前の人たちにとって、川をつけかえるというのは、たいへんなことだったと思います。しかし、そこには私たちが考える以上に、すばらしい知恵や高度な技術がありました。大和川につけかえ工事は、どのようにして行われたのでしょうか。つけかえ工事のよすをのぞいてみることにしましょう。

### つけかえ前の大和川

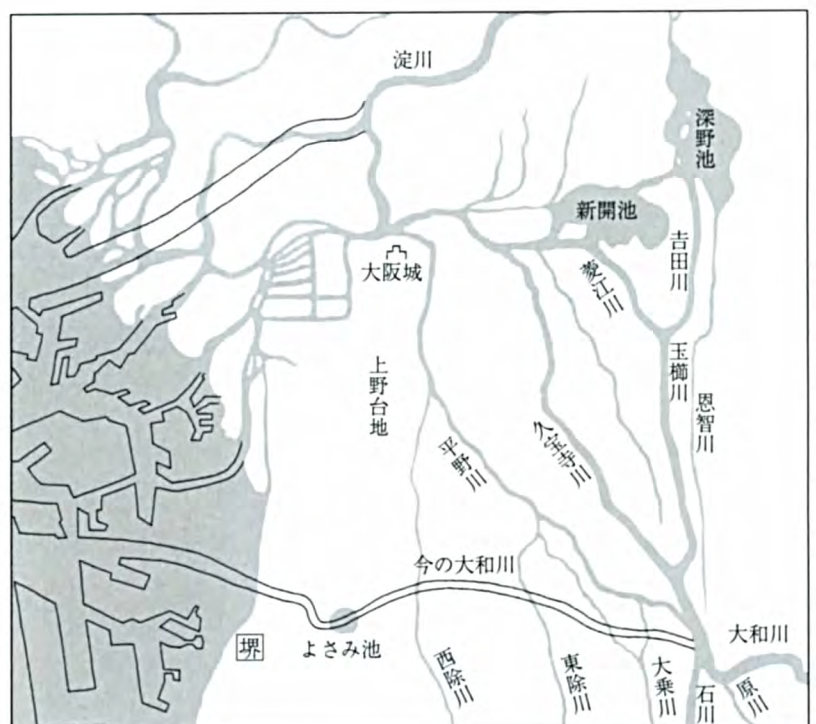
つけかえ前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）、玉櫛川（玉串川）、平野川などに分かれて流れ、大阪城の北でもとの淀川（大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな平野を流れているため、大雨が降るとすぐに洪水をおこしていました。

やがて、洪水に苦しむ人たちから大和川をつけかえてほしいという願いが出されるようになりました。そこで、幕府（国）はつけかえが必要かどうか、なんども考えましたが、いつもつけかえは必要ないという結論が出ていました。つけかえにたくさんのお金がいること、工事をするのがむずかしいことだけでなく、つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも大きな理由のひとつだと考えられます。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したのです。そのため、つけかえが行われることはありませんでした。

貞享 4 年（1687）にも、つけかえをお願いする文章が幕府に出されましたが、つけかえはしないときびしい答えが幕府からかえってきたようです。それから、つけかえを願う文章が出されることはなくなり、大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいという願いに変わります。そして、そのお願いに参加する人たちもどんどん少なくなっていきました。

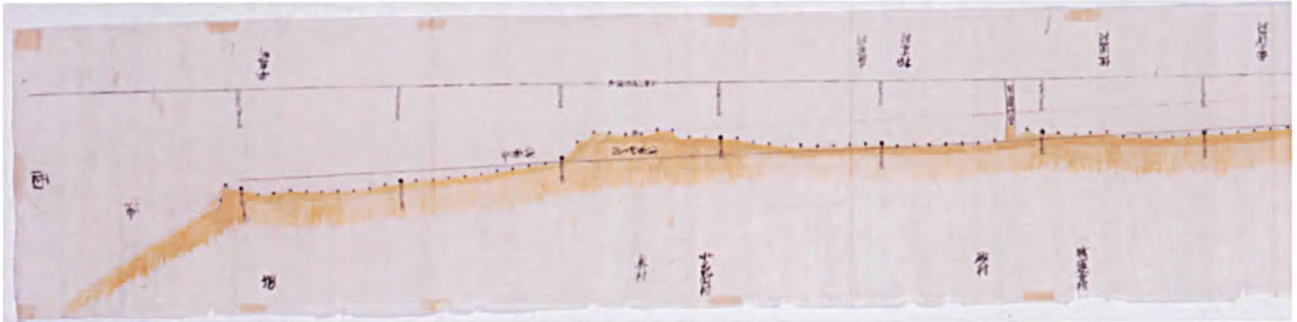
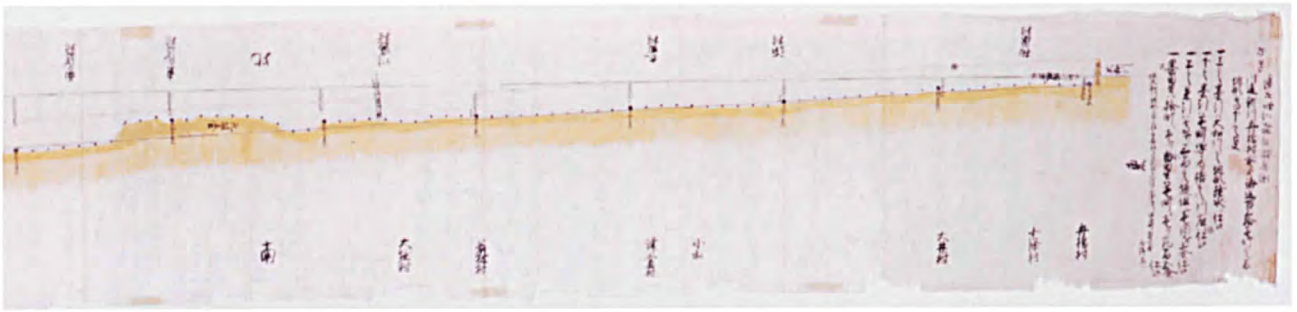
### つけかえ工事の決定

それから 10 年以上、みんながつけかえをすっかりあきらめたころに、急に幕府はつけかえることを決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入ってくると考えたからです。つけかえ工事で幕府が使ったお金は、もとの川に田畑をつくるためにはらわれたお金で、ほとんどもどってきました。そのうえ新しくできた田畑からは、年貢（税金）がたくさん入ってくるようになります。幕府にとっては、もうかる工事だったのです。



つけかえ前の大和川





ちけいこうげのこと なかけもんじょ  
**地形高下之事 (中家文書)**

つけかえ地点から海までの地面の高さを測った測量図です。上のほうにまっすぐ水平に引かれた黒い線は、高さの基準になる線です。黄色い部分が、つけかえ前の地形（地面の高さ）をあらわしています。それに重なるように引かれた黒い直線は、新大和川の川底の高さです。この図をみると、瓜破と上町台地のところは掘り下げが必要ですが、それ以外のところは、川底をほとんど掘り下げずに新しい大和川がつくられていることがよくわかります。正確な測量を行って、むだのないように工事を計画していたことがわかります。

**つけかえ工事**

つけかえ工事は、宝永元年(1704)の2月にはじまり、10月に新しい大和川が完成しました。わずか8か月で新しい大和川が完成したのです。工事が早く終わった理由は、何人かの大工がぶんとんして工事をおこなったことや、できるだけ川底を掘らずに工事を進めたことなどが理由のようです。

まず、工事をはじめる前に、正確な測量を行っています。そして、むだのないように、その方法をよく考えて工事をしています。工事は田畑で使っていたクワやスキで土を掘り、その土をモッコで運んで堤防をつくっていきました。堤防は、北側の堤防が幅15間(27.3m)、高さ3間(5.4m)。南側の堤防は幅13間(23.6m)、高さ2間半(4.5m)で、北側の堤防のほうが大きくつくられていました。もし北側の堤防がつぶれると、大きな被害がでると予想されたからです。工事のようすから、そのころの人たちの知恵と技術を知ることができます。

つけかえ後は、もとの大和川のまわりでは洪水の心配もなくなり、川だったところには新しい田畑がつくられました。これを新田といいます。新田では、綿がたくさんつくられました。

ところが、新しい大和川の近くでは洪水がおこるようになり、いろいろとこまることがおこっています。大和川は、いろいろな人たちの生活と深くかかわってきた川なのです。